

図書館においてある本の中から  
おすすめのものを選びました。  
バラエティに富んだ本を紹介します。

ぷくみみちゃん

やぎ たみこ 著



ぷくみみちゃんは、かわいい  
福の神です。  
ぷくいもちゃんと一緒に町中  
に幸せをふりまくのですが…。

町立 鷹巣図書館  
TEL0996-86-1111

町立 指江図書館  
TEL0996-88-6500

ねぎのレシピ

瀬尾 幸子 著



具にもなれば薬味にもなり、  
いいだしも出る。  
料理のコツも掲載。ラクうま  
なレシピ集です。

Pick Up publication

長島文芸

Naoshima Bungo  
なかしまぶんげい

明神俳句会

初山河老ゆるがままに老いぬべし 淵脇 護  
 花嫁の白き腕や桃の花 迫口 君代  
 漁始め白兎の灘を蹴立てゆく 筑前 初市  
 九〇の母が手伝う干大根 大堂 早苗  
 去年今年厨の鍋はかがやきて 山寄加代子  
 眼下にからふる生簀初景色 二階堂妙子  
 思ひ出の尽きぬ亡き娘よ年明くる 坂口 静子  
 初明り母屋の窓に届きたり 関 佳代美  
 初御空岬に白き波の音 二階堂恵子  
 橙をしばつて食らう赤ナマコ 大堂 正弘

長島短歌会

紅梅と白梅ほころぶ県道沿ひ甘き香りにしばし憩 中山タマエ  
 へり 満開の梅の枝間を行き交ひて春は近かり目白の番 濱田美代子  
 四季咲きの蔓薔薇宙にゆらぎをり支えもたねば冬 濱畑 松枝  
 空掃きて 喜びて食む孫の居て料理せる日毎のわれの幸せに 松元 睦子  
 して 「海征かば水漬く屍」と唄ひしは遠くなりゆき老 市尾 操  
 ひて忘れじ 二羽の鳶高く廻りて巢作りの小枝啜へてわが上を 岩下 ち江  
 舞ふ 立春の光を浴びる裸木の枝それぞれに膨らみを見 岩下 房代  
 る

幾十年時を隔てて九十七歳の人はわが名を呼び給  
 ひたる 樗平 頼子  
 五位鷺のわが行く前に低く飛び馬草の青き田に降  
 立ちぬ 米尾 和子  
 一世紀経し柱時計の捻子回しカチカチ音す夜の静  
 寂に 坂之下典子

創生短歌会

この頃は鳩のつがいが畑に来ずやはりあの後別れ  
 たのかも 竹之内重信  
 歩くことままならぬ迄働きて友は夢なき世を嘆き  
 逝く 村上 義彦  
 老ゆるとはかくいたましく腕ほそし平然として我  
 はおれども 野村 益信  
 長生きを望まずひっそり逝きたしと今宵も二粒の  
 薬を飲みぬ 宮元 司  
 おはようと猫にあいさつする朝の猫は猫なりの表  
 情をなす 石原百合子  
 かたわらに支えられたる妻も逝きひとり夕飯を  
 猫となごめり 山下 学  
 後期高齢運転免許更新す車庫入れに少し戸惑いた  
 れど 大塚 洋子

一般作品

「短歌」  
 わが顔を鏡にみつつき母にそっくりになった歌  
 声までも 中仮屋辰子  
 わが妻は息子の帰り待ちわびる吾にもそんな母の  
 在りし日 平木 良雄  
 夜中なる死んだ人など夢見るや何で見るのか不思  
 議な事よ 町田 末則